

吉岡 翼¹・清水海渡¹：富山県氷見市島尾海岸におけるダイオウイカの漂着Tasuku YOSHIOKA¹ and Kaito SHIMIZU¹ : Stranding record of a giant squid *Architeuthis dux* on Shimao beach, Himi, Toyama

ダイオウイカ *Architeuthis dux* は深海棲の巨大な頭足類として知られ、マスコミなどに取り上げられ話題となることがある。日本海沿岸では定置網等への混入や海岸への漂着による目撃事案が多発する年があり、2014～2015年には計50例を超える過去最多の記録となり、そのうち10例が漂着によるものであった (Kubodera et al. 2018)。池田 (2019) によると目撃事案の増加は対馬海流の勢力が強くと多雪となる年の2～3年後に起こるとされ、増加が期待された2019年秋から2020年冬には各地で目撃が多発した (福井新聞2019年12月20日朝刊24面；京都新聞12月21日朝刊23面，2020年1月22日朝刊20面；北日本新聞2月13日朝刊22面)。そのような中、2020年3月4日夕、氷見市島尾海岸の砂浜に漂着したという情報が

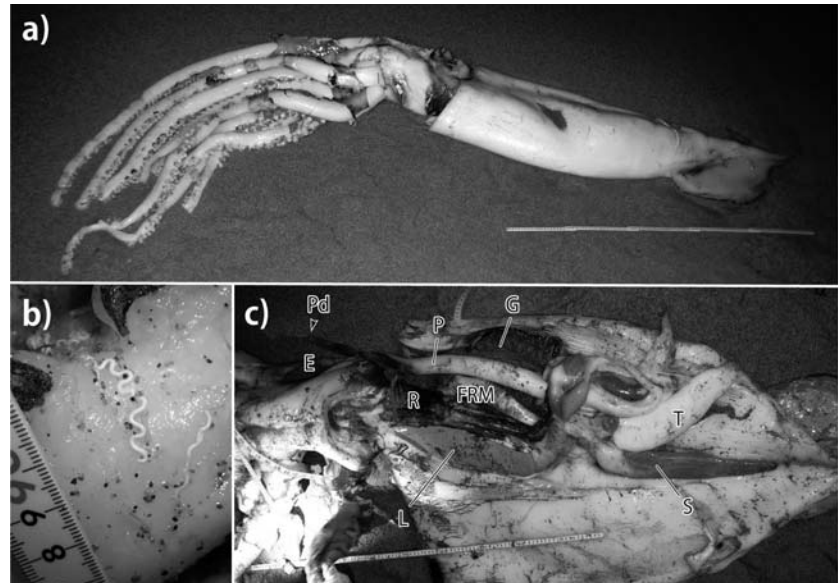


図1 漂着したダイオウイカ

a) 全身。写真上が沖方向。右下の折尺は1 m；b) 腕部表皮下の精子嚢；c) 外套を開き臓器を裸出させた状態。E：眼；FRM：漏斗牽引筋，G：鰓，L：肝臓，P：陰茎，Pd：陰茎開口部，R：直腸，S：胃，T：精巣。

筆者らのもとに寄せられ、当夜現地において確認・観察を行ったので、当該漂着個体について記録する。

漂着個体は外套背長133cmの雄で、左右の触腕は失われ、表皮も腕の基部や漏斗を除き大半が剥がれ落ち、全体として白色を呈していた (図1 a)。触腕を除く8本の腕もすべて遠位部が欠損し、周囲には数cm大の破片が数点あった。残存する腕を含めた全長は302cm、外套周長は91cm、鰭長56cmであった。頭部の表皮も大半が剥がれ、左右とも眼のレンズは失われていた。外套口の左側からは陰茎が露出し、左右第IV腕の基部から約20cmの範囲には、縮れた蠕虫状の精子嚢が組織内に多数貫入していた (図1 b)。陰茎から離れた場所では頭部右側面にも精子嚢の貫入がみられた。ダイオウイカの雄では偶発的に放出された自身の精子嚢が腹側の腕基部付近に貫入することがあるため、今回見られた多数の精子嚢もこの個体に由来するものと思われる。外套と漏斗の軟骨器の結合は外れた状態で、外套内には砂が入り込んでいたが、臓器に顕著な破損はなかった。内部は漏斗牽引筋に挟まれた肝臓、外套先端に位置する胃および発達した精巣が大きな割合を占め、外套外に達す陰茎が目立つ (図1 c)。陰茎長は直接測らなかったが、写真計測で少なくとも80cm程度あり、伸ばすと先端は外套から20cmほど出て頭部の先端付近に達する。

今期のダイオウイカ目撃事案の増加は池田 (2019) による予測を裏付けるものであり、本個体を含め、対馬海流の勢力が強くと多雪となった2017年秋～2018年冬に流入した若齢個体が日本海で成長したものと考えられる。

引用文献

- 池田 伶 2019. 日本海におけるダイオウイカの漂着過程の推察. 新潟県水産海洋研究所研究報告(4) : 47-57.
 Kubodera, T., Wada, T. Higuchi, M. and Yatabe, A. 2018. Extraordinary numbers of giant squid, *Architeuthis dux*, encountered in Japanese coastal waters of the Sea of Japan from January 2014 to March 2015. *Marine Biodiversity* 48 : 1391-1400.
 (Received Sep. 1, 2020; accepted Sep. 25, 2020)

¹ 〒939-8084 富山県富山市西中野町一丁目8-31 富山市科学博物館

¹ Toyama Science Museum, 1-8-31, Nishinakano-machi, Toyama, 939-8084, Japan